

概要

徳島新聞社では、出産や育児に夢の持てる社会作りを推進する「はぐくみ徳島」を、産官学民と連携して2001年4月から実施しています。未就学児までの子どもがいる家族を主な対象とし、立体的な事業を年2回、広告特集を月1回(イベント告知広告含む)掲載しています。

メイン事業である次世代育成支援イベント「おぎゃっと21」は、毎年5月3、4日の2日間開催し、ゴールデンウィークの行事として定着してきました(2009年度のみインフルエンザの大流行のため中止)。妊娠中や乳幼児のいる家庭の参加者が、親子で楽しみながら健康相談ができたり、さまざまな子育て支援情報が得られたりする場となっています。

阿波銀行、大王製紙が年間協賛社となっているほか、単体事業ごとの協賛を得ています(協賛数は2014年3月末日現在、35団体。特集時の広告掲載を除く)。

企画が生まれた背景や意図・ねらい

21世紀の少子化を考える上で、出産や育児に夢の持てる社会づくりの推進(子育て支援)と、次世代育成支援対策を合わせた事業内容の実施を目的として、2001年に開始しました。子育て経験者、小児科を中心とした医療従事者、数年後には親となる学生など、幅広い世代で子育てを考え、実践できる社会作りを目指し、その輪を広げていくことを意図して継続しています。



「はぐくみ徳島」のロゴマーク

子育て支援のNPO法人を紹介する広告特集(徳島新聞2014年1月26日付)

反響

イベント「おぎゃっと21」には、毎年1万人前後の家族が参加しています。また、運営側でも医療関係者や学生など2日間約1,000人がボランティアとして参加しており、世代を越えた子育て支援の輪が広がっています。



「おぎゃっと21」会場の様子



病児・病後児保育について解説する広告特集(徳島新聞2014年2月23日付)